

もも管理特報 No. 1

令和4年3月2日
みな穂もも研究会
みな穂農業協同組合
富山県新川農林振興センター

1 生育状況

- ・「あかつき」の開花始めは、平年に比べ2日遅い4/12頃と予測される。
- ・新潟気象台発表の1か月予報（2/24）では向こう1か月の気温は平年並み～高い、3か月予想（2/25）の4月の気温は平年並み～高いと予報されており、開花時期が早まる可能性がある。

※最新の開花予測は、富山県園芸研究所ホームページで公開しています。参考にしてください。

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/>

果樹研究センター開花予測（3/1時点）

| 年次 | あかつき | |
|---------|------|------|
| | 開花始期 | 開花盛期 |
| R4年(予測) | 4/12 | 4/15 |
| R3年 | 3/30 | 4/3 |
| 平年 | 4/10 | 4/13 |

- ・本年は、圃場が雪で覆われている日が多く、休眠期の作業に時間がかかっています。開花までの気温や生育状況に注意し、作業が遅れないよう計画的に進めてください。

2 病害虫防除

<防除のポイント>

- ・薬剤散布は、かけムラが発生しないよう、①剪定時に枝の重なりを解消したうえで、②園の中で病害虫の発生が多い樹や場所を事前に確認してから、③300ℓ/10aを確実に散布する。
- ・特に、カイガラムシ類の常発園や前年、縮葉病が多発した園では、重要防除時期にあたる発芽前（休眠期）防除を確実に実施する。
- ・また、カイガラムシ類の常発園では、枝幹に寄生しているカイガラをタワシ等で削り落とし、密度を下げた後から薬剤を散布すると効果が高い。

薬剤防除

| 回数 | 散布時期 | 対象病害虫 | 薬剤名と希釈倍率 | 100ℓ当たり薬剤量 | 10aあたり散布量 | 防除実施日(自己記入) |
|----|---------------|-------|--|----------------------|----------------------|-------------|
| 1 | 3月15日頃まで(発芽前) | 縮葉病※1 | 石灰硫黄合剤 または ホームコート※2 展着剤 マイリノー | 7倍 50倍 20,000倍 | 14ℓ 2,000g 5cc | 300ℓ |

※1：縮葉病対策としてこれらの剤を発芽前までに散布できなかった場合は、ドキリンフロアブル（800倍 発芽前～開花直前まで5回以内）を散布する。

※2：石灰硫黄合剤による肌のかぶれや、器具の損傷が激しい場合はホームコートを利用する。ただし、石灰硫黄合剤は、胴枯病、黒星病、カイガラムシ類、ハダニ類、越冬病害虫にも登録があるが、ホームコートの登録は、縮葉病のみ。

コスカシバ対策：コスカシバの虫フンを見つけ次第、被害部を小刀等で削り取り、幼虫を捕殺する。

- ・使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

3 摘蕾（着果管理）について

(1) 概要

- ・着果管理は①摘蕾＋摘花、②早期摘果、慣行のいずれかの方法で実施する。

※R2年のような開花期が低温となった場合、③一発強摘蕾と④粗摘蕾＋仕上げ摘蕾は、結実量を確保できない可能性があることから極力実施しない。

【富山型モモ栽培体系】

| 栽培体系 | | 月/旬 | | 3月 | | 4月 | | 5月 | 6月 |
|-------------------|-----------------------------|-----------|-----|--------------|-----------|-----------|----------|----|-----------|
| | | 中旬 | 下旬 | 中旬 | 下旬 | 中旬 | 下旬 | | |
| 富山型 モモ 栽培体系 | ①摘蕾＋摘花 | | | 摘蕾 70～80% | 摘花 90% | | | | 仕上げ 摘果 |
| | ② 早期摘果 | | | 摘蕾 70～80% | | 摘果 90% | | | |
| | ③ 一発強摘蕾 | | | 摘蕾 90% | | | | | |
| | ④ 粗摘蕾＋ 仕上げ摘蕾 | 摘蕾 90% | 見直し | | | | | | |
| 慣行 栽培体系 | | | | 摘蕾 70～80% | | | 予備 摘果 | | |

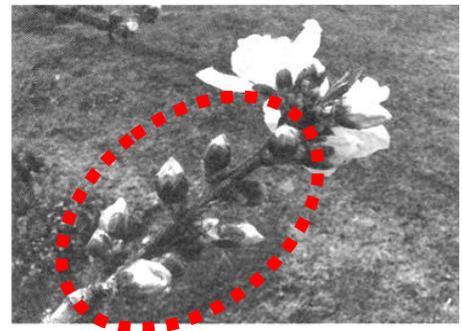
【結果枝別の残す花蕾（果実）の数と位置（果樹研セ作成を改変）】

| 残す花蕾（果実） 1個あたりの枝 の長さ(cm/個) | 結果枝の種類(果枝長cm) | | |
|----------------------------------|---|--|---|
| | 短果枝 (15cm未満) | 中果枝 (15～30cm) | 長果枝 (30cm以上) |
| | 先端付近に1～2個 | 中央部に2～3個 | 中央部に4～8個 |
| 8 |  |  |  |

 は残した花蕾.

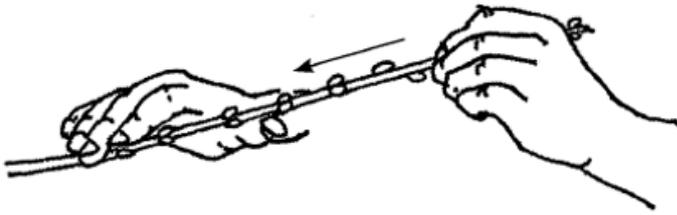
(2) 摘蕾の適期

- ・作業適期の蕾の状態は、花芽の赤い色が少し見え始めた頃から風船状になるまでの期間。



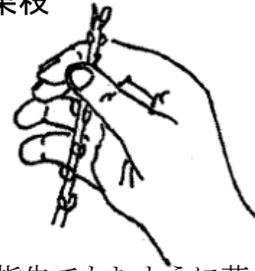
(3) 摘蕾の方法

①長果枝、中果枝



- ・枝の上部を中指、人差し指で枝の先端から基部に向かってしごき落とす。

②短果枝



- ・指先でもむように落とす。

(4) 注意点

- ・「川中島白桃」、「なつき」等、花粉を持たない品種の摘蕾は、軽め（50%程度）で行う。
- ・葉芽を傷つけないように注意する。
- ・1～2年目の苗木、成木（8年生以上）の主枝や亜主枝先端、伸ばしたい枝の先端50cm程度は、すべて摘蕾する。
- ・上向きや真下向きの蕾を中心に摘蕾し、横～斜め下向きの蕾を残す。
- ・予め確保できる人数、日数に合わせた作業計画を立て、作業が遅れないようにする。

4 苗木の定植（改植時の注意点）について

- ・ももは、いや地現象で生育不良が発生することがあるため、改植を行う場合は、以下の点に注意して定植する。
- ・植え穴は、伐採樹の植え穴から1 m程度離れた場所に設置する。
- ・伐採樹の根は、できるだけ除去する。
- ・植え穴の大きさは、新植時よりも大きくする（直径1 m程度、深さ60cm程度）。
※具体的な方法は、整枝・せん定講習会資料を参照してください
- ・苗木は、成木に比べ根量が少なく土壌水分の急激な変化に弱いため、こまめなかん水や株元マルチを行い、初期生育を確保する。

○3月（休眠期～発芽期）の作業チェック表

| 作業内容 | 作業のポイント | 実施適期 | 実施予定日 (自己記入) | 実施日 (自己記入) |
|------------------------|---|----------------|-----------------|---------------|
| 休眠期せん定の完了 | ・ 第1回目防除前までに完了する | 3/10頃まで | | |
| ほ場の排水性見直し (排水路の手直し) | ・ 園地内で雨水が数日溜まる箇所は心土破碎等の実施や、排水路を整備する | 発芽前まで | | |
| 防除の実施 (石灰硫黄合剤) | ・ かけムラのないよう散布 ・ 縮葉病多発園地は2回散布する | 発芽前 3/15頃まで | | |
| 苗木の定植 | ・ 苗木到着後速やかに実施 | 発芽前まで | | |
| 摘蕾 | ・ 開花期の低温による結実不良のリスクを減らすため、一発強摘蕾（90%摘蕾）は行わず、70～80%程度（慣行）とする ※花粉のない品種（川中島白桃等）は上向きの蕾を軽く落とす程度とする | 3月中旬～ | | |